

めだか談義

メダカ発世の中つれづれの記 2020・7・26



小田原の山林地区では、イノシシやシカによる森林破壊の被害が問題視されていますが、千葉県では「キョン」という小鹿による農作物、花、樹木の被害に悩まされているそうです。体長 50 センチほどの小柄で愛らしい姿にも関わらず、悪さをし放題。もともとは、勝浦の「行川アイランド」で飼われていたのが脱走、外房から徐々に勢力を広げ、内房にまで活動範囲を広げているのだとか。1980 年ごろの脱走事件から 40 年余り、いま県内には 5 万頭がいてと推定されているそうです。中国、台湾原産の外来種なので、特定外来生物に指定されているので、もちろん、可愛くても国内で飼育することは禁じられているわけですが、なぜか、伊豆大島でもその被害が報告されているという。房総から泳いで渡るわけではないので、誰かが持ち込んだわけですね。(以下、余談。)
「キョン」といえば、「キョンキョン」。小泉今日子のデビューはちょうどその頃、80 年代の初め、153 センチと小柄で可愛い小鹿のようだったので「キョンキョン」と名づけられたのではないかと、これは、「キョンキョン」ファンとしての僕の妄想。アイドルだった「キョンキョン」は、いまや政治的発言までする特定在来女優になるまで脱皮を繰り返し、いい大人になりました。

生き物の脱走事件といえば、僕らのメダカの天敵、アメリカザリガニ。改めて調べてみました。もともと日本には、東北以北に二ホンザリガニがいました。そのころはわざわざ二ホンとつけずに、単に「ザリガニ」と呼んでいて、今日のようにアメリカザリガニの勢力が拡大し、こちらが一般的になったことで、二ホンをつけて区別することになったのだとか。そのアメリカザリガニ、原産は北米ミシシッピ川沿岸の南部。ここから、日本でウシガエルの養殖事業を行う業者がその餌とするために輸入したのが、アメリカザリガニの日本初上陸（200 匹の輸入で、20 匹だけが生きて上陸という記録あり）1927 年、今から 90 年余り前のことでした。複数回の輸入を繰り返したともいわれていますが、そこから脱走したという説、養殖施設見学者のお土産として持ち帰らせ、それがキッカケという説など、諸説あるようですが、とにかく繁殖の発端はこの養殖場でした。鎌倉の大船にこの養殖場があったのですが、その跡地にはいま「アメリカザリガニ発祥の地」という看板が建てられているのだそうです。(何だか笑えますね) 「アメリカザリガニ」の繁殖力はすさまじく、繁殖力が旺盛ということは食欲が旺盛であることを物語るわけで、ゲンゴロウなどの激減も「アメリカザリガニ」の影響を多分に受けているとされているそうです。雑食なので、水草、藻、小魚、水生昆虫、オタマジャクシ、落ち葉まで食べてしまう食いしん坊。メダカだけでなく、大好物のひとつがイネ。田んぼの中でイタズラ半分なのか田植え間もないイネをチョキンチョキンと切ってしまったり、苗の根を食べてしまったりと、田んぼの天敵でもあるのですね。子どもたちの遊びとして楽しい「ザリガニ釣り」ですが、在来の生態系を守るという意味からはとても意義の深い環境保全活動になっているわけです。

日本生態学会からは、「侵略的外来種ワースト 100」に選定され、環境省からは、「特定外来生物に指定されています。彼らにとっての天敵は、ナマズやスッポン、サギ。桑原にもたくさんいる彼らにも頑張ってもらいたいものです。会発足以来のアメリカザリガニ駆除では数千匹を捕獲してきましたが、抱卵中のメスの捕獲は残念ながらなかなか。これができれば一網打尽となるのにね。今年も彼らが冬眠に入る秋までに、いっぱい釣りあげてしまいたいものです。そして、本当は、美味しく食べてあげるのが、いちばんの供養？

遠く、ミシシッピ川から連れてこられて。